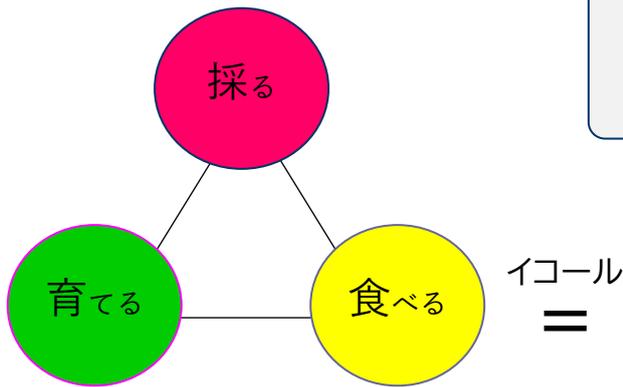




天候不順でプール遊びが出来ない日、5歳児との会話で「今日はプールに入れないね」と話すと「やったあ」とジャンプするほど喜んでます。意外な反応にどうしてそんなに嬉しいのか聞いてみると「だって鬼ごっこがいっぱいできる」と言います。5歳児にとって、保育園での夏の最高の楽しみはプールだとばかり思っていたけれど、毎日の生活に寄せる期待があり、子どもは常に楽しいことを見つけて前に向かっていくのだと感じました。雨が続いた日は廊下で縄跳びに励みます。コツコツ取り組み、昨日より跳べるようになっていたことを実感すると俄然やる気になり、何十回、何百回跳べたよという報告が聞こえてきます。たくさん跳べる友達のことを「〇〇ちゃんて△△回も跳べてすごいんだよ」と周りの人に教えるその言葉はうらやましさだけでなく、そこに自分自身の目標を置いているようにも聞こえ、心から応援したい気持ちになります。先日、中学校教諭の10年目研修の受け入れがありました。専科が理科だったので、5歳児クラスで『固体・液体・気体』の授業を行ってもらい「水は液体であり、液体は入れるものによって形を変えられる」と教わりました。5歳児には少し難しかったようですが、大好きなプールの水と結びつく瞬間があったら、その時は大きな学びになりそうです。

子どもたちの会話の中に、ご家族と過ごす夏を待ち望むような言葉が聞かれます。ご家庭での経験が保育園での遊びに再現される日を楽しみに待ちながら、安全で楽しい夏を過ごせるようにと願っています。



行事予定

プールじまい (3・4・5歳児)
水遊び終了 (0・1・2歳児)

中旬 身体計測 避難訓練

ほし組 (3歳児)

初めて収穫した栽培物はピーマン25個、インゲン54本でした。ピーマンは子どもたちの目の前でホットプレートを使い、ごま油と醤油で焼いてもらいました。野菜を切る音やジュージュと焼ける音、湯気が上がる様子、醤油の香ばしさに「いい香り〜」とつぶやきが聞こえます。「ちょっとがいい」「いっぱいがいい」「おかわり」とそれぞれの食べたい量を味わい、満足しました。二日後もインゲンを収穫したのでおほか醤油味を提案すると、子どもたちからは「ごま油と醤油がいい」とリクエストがありました。ピーマンの味付けがそれだけ美味しかったようです。調理過程を見ることが、採れたて野菜の美味しさ倍増で味わっています。



美味しい…のトライアングル

つき組 (4歳児)



「自分たちで水やりをしたい」という子どもたちの声を受け、グループ毎に水やり当番を始めました。「花が咲いたよ」「赤ちゃんナスができていた」と小さな変化を楽しみにしています。虫が好きなクラスなので、最初のうちはきゅうりやナスについている虫を嬉しそうに観察していましたが、てんとう虫が葉や実を食べていることがわかると「みんなのナス食べないで」と虫を発見する度に取り除き、栽培物を守っています。この夏、クラス全員で世話をしながら大切に育て、たくさん収穫出来るようにと願っています。クラスで取り組む栽培です。美味しく食べる方法も話し合いで決め、楽しみながら味わいます。





夏だね～

水も湯もどっちも気持ちいい

もも組（0歳児）

月齢によって沐浴と水遊びに分かれることで、湯や水に触れています。沐浴槽の湯に浸かると全身の力が抜け、体もフワッと浮くので、とてもリラックスした気持ち良さそうな表情で保育士に微笑みかけています。水遊びでは、保育士が自分の手や足に水をかけてみせると“私も触ってみたい”という気持ちで水を張ったタライの中に手を入れ、ゆらゆらと水を揺らして感触を確かめています。「気持ちいいね」と話しかけると“本当だね”というように嬉しそうな表情を返しています。少し慣れてくると、ひしゃくですくった水をバシャッと勢よく撒いています。その水が子ども自身にかかった驚きや面白さと、思わず「冷たいっ」と反応してしまった保育士の姿が楽しさとなり、顔を見合わせて笑う場面もありました。水の感触や気持ち良さを夢中で楽しんでいます。



たんぼぼ組（1歳児）

容器やひしゃくで水をすくってはこぼしたり、体にかけたり、容器に入れて保育士や友達に渡すやり取りを繰り返し楽しんでいます。キャップを浮かべたタライの水をひしゃくでかき混ぜ、クルクル回る様子を夢中になって見ている子がいます。洗面器に移し替えたキャップで水面がいっぱいになると、手のひらでそっと押さえ、水の抵抗で浮き沈みする不思議な感触を楽しんでいる子もいます。水の感触だけでなく、様々な『不思議』にも面白さを感じながら“どうなるかな”と試してみる姿があります。一人ひとりが思いつくままに様々な遊び方でじっくりと楽しんでいます。



ちゅうりっぷ組（2歳児）

ペットボトルに水を入れてキャップを閉め、水を張ったタライの中に投げ入れた子がいました。重さがあるはずのペットボトルが水面にプカプカと浮く様子を目にすると、指でつつきながら「動いている」と不思議そうに言っていました。別の子は、水を入れたペットボトルと空のペットボトルの飲み口を合わせて両手で持ち、砂時計のような形を作っています。2本のペットボトルの上下を変えながら動かし「水がこっちにきたよ。今度はこっち」と右から左、左から右へと流れていく様子を見入っていました。ビニール袋を用意した日は、水を入れたビニール袋の外側から水を掴み、ブヨブヨした

感触を楽しんでいました。『水』という形のない素材が使う道具によってどんな形にも、どんな感触にでも変化することを発見しながら遊びを楽しんでいます。

